

# オンスクリーン環境における タイプフェイス

原研哉、永原康史両氏が毎回、さまざまな分野の専門家を招き、オンスクリーンでのタイポグラフィを考える会「言葉のデザイン2010」。東京ミッドタウン内のインターナショナル・デザイン・リエゾンセンターで行われた第二回は、オンスクリーンに最適な文字とはなにか、書体とはなにかを考える意義深い会となった。

文・大城謙司 写真・弘田充



## Guest 01 鳥海修 (字游工房)



字游工房・代表。写研を経て1989年、字游工房設立に参加。大日本スクリーン製造より販売されているヒラギノフォントやこぶりなゴシック、游樂シリーズのデザインを手がける。2002年には初の自社販売フォントとして、游明朝体Rをリリース。以降、游樂初号ゴシックかな、游樂見出し明朝体、游樂初号かな、游教科書体M、游勤亭流等を発表している。洗練された、やさしい佇まいの文字は、デザイナーからの支持も厚い。  
<http://www.jiyu-kobo.co.jp/>

字游工房がデザインを担当したヒラギノ角ゴシック(左)と、ヒラギノUD角ゴシック(右)。多くUDフォントが字面を大きくする中、ヒラギノUDフォントでは、字面を小さくすることによって読みやすさを実現している。書体デザイナーが考える「読みやすいとはなにか」。その違いが、書体デザインのアプローチにも表れている。

ヒラギノ角ゴシック W3

ヒラギノ UD角ゴシック W4

あす あす あす

「漢字のデザイン要素」「かなのデザイン要素」として、フトコロやエレメント、字面の大きさによりどのように印象が異なるかを解説。図はかなのエレメント比較。単純なエレメントほど機械的/静的/情緒がない(上)、複雑なエレメントほど人間的/動的/情緒がある(下)、とした。

国東愛今永酬鷹三袋鬱  
あいうえおかきくけこ  
さしすせそたちつてと  
なにぬねのはひふへほ  
まみむめもやゆより  
るれるわめんゑをばぱ  
ルレロワヰンエヲー

国東愛今永酬鷹三袋鬱  
あいうえおかきくけこ  
さしすせそたちつてと  
なにぬねのはひふへほ  
まみむめもやゆより  
るれるわめんゑをばぱ  
ルレロワヰンエヲー

国東愛今永酬鷹三袋鬱  
あいうえおかきくけこ  
さしすせそたちつてと  
なにぬねのはひふへほ  
まみむめもやゆより  
るれるわめんゑをばぱ  
ルレロワヰンエヲー

国東愛今永酬鷹三袋鬱  
あいうえおかきくけこ  
さしすせそたちつてと  
なにぬねのはひふへほ  
まみむめもやゆより  
るれるわめんゑをばぱ  
ルレロワヰンエヲー

名の知られたタイプフェイスデザイナーだ。一般ユーザーにも認知されている仕事としては、Mac OS Xに標準搭載されているフォント・ヒラギノシリーズの開発がある。また「藤沢周平が読める書体がない」ということから開発が始まったフォント・游書体シリーズも、多くのエディトリアルデザイナーから支持を集めている。オンスクリーンメディアのデバイスフォントと、書籍用(紙媒体)の本文書体。この両者を手がけているという点では、稀有な存在と言える。

「原さんは『オンスクリーンにおける日本のタイポグラフィはなぜ品質が低いのか』と発言なさったとのことですが、なぜそういうことになるのかを、自分な

の鳥海修とアクシスの宮崎光弘。両者を紹介するにあたり、原とともにデザイナーを務める永原康史はこう語った。「タイポグラフィには『使う』と『作る』というふたつのフェイズがあります。今回は『作る側』からの報告となります。おふたりとも、紙媒体とオンスクリーンメディア、双方で使用される書体をデザインなさっている。はたして、両者に本質的な違いはあるのか。現場の知見に耳を傾けたいと思います(永原)」

### 文字のデザインに、ようやくテクノロジーが追いついてきた

字游工房を率いる鳥海修は、斯界では

7月2日(金)、社団法人日本グラフィックデザイナー協会(JAGDA)が主催する「言葉のデザイン2010」オンスクリーン・タイポグラフィを考える」第2回の研究会が開催された。ディレクターは原研哉と永原康史。ディレクターの原研哉は、冒頭、このような問いかけを行った。「これまで紙媒体で展開されてきた美意識を、今後、オンスクリーンでも反映することはできるのでしょうか。そもそも、反映する必要があるのかどうか。オンスクリーンメディアにおいては、言葉のあり方そのものが変化しようとしている。そのとき、デザインも変わらざるをえないのではないか(原)」

今回のゲストスピーカーは、字游工房



「字游工房を設立した鈴木勉は、かつてこんなことを言っていました。『テクノロジーに文字を合わせるのではなく、文字にテクノロジーが合わせてほしい』と。面白いことに、iPadの解像度は、印刷物に匹敵するレベルになっている。つまり、書体設計において、オンスクリーンメディアということも、いちいち考えなくてもいい、ということもある。言い換えると、『普通の文字』を『きれい』に表示できる環境が整ってきた。そういうふうになっています(鳥海)」

「人間で言うと、フォントは『声』のよくなるもの。ですから『アクシス』の声になるような書体を生み出したかった。タイププロジェクトの鈴木功さんに、和文書体の設計をお願いし、『ありそうでなかった書体』を模索しました(宮崎) 『アクシス』は海外の読者も射程に入れている。英文併記のため、本文は横組み

「2011年『AXIS』誌の30周年号でアクシス明朝を展開する予定です。大きな特徴は、従来の『ウェイト』という考え方に加え、『コントラスト』という概念を加えたこと。ウェイトとコントラストのマトリックスで、現状、30タイプのバリエーションを考えています」

## 言葉のデザイン 2010

オンスクリーン・タイポグラフィを考える

「言葉のデザイン2010—オンスクリーン・タイポグラフィを考える」は、原研哉と永原康史がディレクターとなり、オンスクリーンにおける文字表現を考えるプロジェクト。毎月1回、全7回の開催を予定している。詳細は公式Webサイトにて。  
http://www.kotobanodesign.com/【次回】  
テーマ：言葉が運動を始めている  
ゲスト：高橋源一郎(作家) × 橋本麻里(ライター)  
日時：2010年8月3日(火)



原研哉

水や空気と同じく文字も美しくなくてはいけないと考える鳥海さんの考えに共感。一方ではアクシス明朝の明晰な発想に感心した。同時に自分は文字のデザイナーではなく言葉のデザイナー。タイプフェイスはよく使う包丁のようなものだった。

実際に文字をつくる職人タイプのデザイナーは、文字は美しくあるべきだと説き、文字の行く末を考えるアートディレクターは、読まれていないときのたずまいを問う。「読む」ではなく「見る」からはじまる美意識に共感した。



永原康史

### ●研究会を終えて

### スクリーンと紙、それぞれに最適な文字の姿を追求する

紙メディアとオンスクリーンメディアは対立概念だと思われているが、テクノロジーが発達するにしたいが、技術的な問題は、ほとんど解消されていく。永原は「紙もオンスクリーンも、実は同じ問題を抱えている」と指摘した。とはいえ、それはオンスクリーンが紙に近づいていくということではない。紙には紙ならではの質感があるように、いずれオンスクリーンならではの質感を追求する時代がやってくるだろう。原は「あくまでも個人的な感覚ですが、やはり紙に刷られた文字と、オンスクリーンメディアの文字は、まったく違う」と述べた。

「アクシス明朝も和文と欧文を同時に開発していった(なお、欧文書体の設計はライノタイプの小林章が担当)。

「ありそうでなかった書体とは何か。アクシス明朝の大きな特徴は、極細のウェイトがあること。そしてかたちがシンプルで、その分、データサイズも軽いことです。つまり、雑誌だけでなく、ウェブでの展開も容易になります(宮崎) NTドコモのサービス「iコンシェル」でもアクシスフォントが使用されている。携帯電話の場合、小さな画面での視認性が求められるが、その点、アクシスフォントには長体の和文フォントが用意されているので、モニタのサイズが小さくても、相応の情報量を盛り込むことができる。

「アクシス明朝も和文と欧文を同時に開発していった(なお、欧文書体の設計はライノタイプの小林章が担当)。

「たしかに、読みやすさは大事でしょう。しかし、それ以前に、文字は美しくなければならぬ。そうも思っています。読みやすさだけに囚われてしまうと、『言葉』とは異なる次元で、文字がデザインされてしまうことになります(鳥海)」

「アクシス明朝も和文と欧文を同時に開発していった(なお、欧文書体の設計はライノタイプの小林章が担当)。

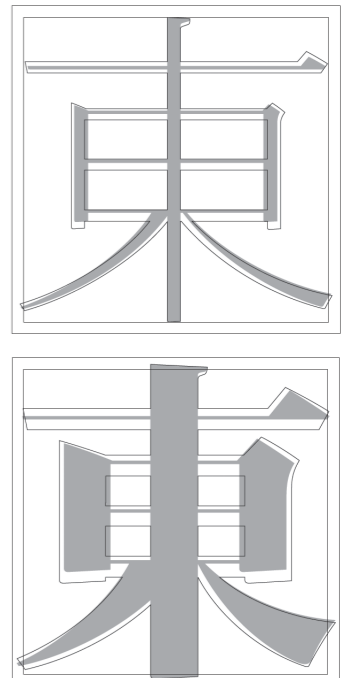
### AXIS Font Basic

UL	水のような書体	A	ABCabc123
EL	水のような書体	A	ABCabc123
L	水のような書体	A	ABCabc123
R	水のような書体	A	ABCabc123
M	水のような書体	A	ABCabc123
B	水のような書体	A	ABCabc123
H	水のような書体	A	ABCabc123



## 東京国海道 我他風明朝 愛家酬鷹鬱 Tokyo 478 Airport 2F

ウェイトに加え、コントラストという概念を加えたアクシス明朝。図は、ウェイトがH、コントラストが1。縦画と横画の差は、コントラスト1がもっとも大きく、コントラスト5がもっとも小さい。上図のデモFlashは、以下のサイトで見ることができる。  
http://www.typeproject.com/demo/axis\_mincho.html



アクシス明朝EL(上)とH(下)。白は低コントラスト、グレーは高コントラストを示している。

## Guest 02 | 宮崎光弘

1957年東京生まれ。1986年アクシスに入社。現在はAXIS designを統括。雑誌や書籍、パッケージ、Web、インターフェイス等、さまざまなジャンルで活躍するほか、リサーチに基づいた戦略的なデザインプロジェクトを多く手がける。多摩美術大学情報デザイン学科教授  
http://design.axisinc.co.jp/



アクシスフォントは全7ウェイトで展開。図のBasicのほか、横幅が約80%で設計されたCondensed、約50%で設計されたCompressedがある。イタリック体等を収録した欧文フォントも、Basic、Condensed、Compressed、それぞれリリースされている。  
https://www.axisfont.com/